

技術科学習指導案

指導者 松尾 秀樹

単元名 「寸法通りの部品を作り上げよう」

単元で育成する資質・能力の重点 課題発見・解決力

- 1 日時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 技術室
 2 学年 第1学年1組 (男子16名 女子16名)
 3 単元名 「製品の設計と製作 ～寸法通りの部品を作り上げよう(部品加工)～」
 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領における「A 材料と加工に関する技術」(3)の内容を受けて設定している。

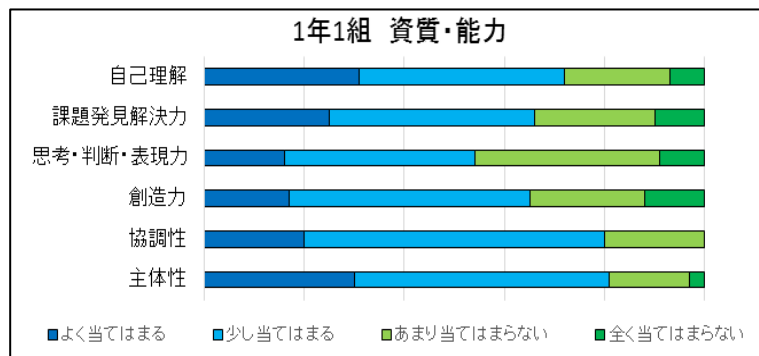
(3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。
 ア 使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えること。
 イ 構想の表示方法を知り、製作図をかくことができること。
 ウ 部品加工、組立て及び仕上げができること。

本単元では、複数枚の板材(集成材)から「けがき」「材料取り」「部品加工」「組立て・接合」「仕上げ」まで一貫して指導する。材料にけがきを行い、部品を切り出し、さらに設計図の寸法通りの部品に加工し、組立てていく過程を経験させる中で、さまざまな工具を適切に利用したり、接合が的確にできること、仲間と協力できること、そしていろいろな場面で必要に応じて修正することを身につけさせたい。

部品加工では、寸法通りの部品を作るために切り出した部品を必要に応じて修正することを身につけさせたい。

(2) 生徒観

右グラフは、本学級年度当初の育成すべき資質・能力の割合である。他と比べると課題発見・解決力について課題があることが分かる。



生徒たちは、小学校時代にほとんどの生徒が木材等を使用してものづくりを経験しており(93.3%)ものづくりが好きな生徒が多い(76.7%)。材料から部品取りをする方法は知っている生徒がほとんどだが(93.3%)、切り出した部品を寸法通りに部品加工する方法については66.7%の生徒が知らない状況である。課題発見・解決力を育てる中で資質・能力の育成を図っていく。

(3) 指導観

1枚の板から『けがき』『材料取り』『部品加工』『組立て』等を行うのは生徒にとってほぼ初めての経験である。そのような生徒が多い中、一人の技量ではできない事も仲間

と協力できるような環境を整え、仲間とともに学びながら、自分の作品の完成度を高めさせる。

本時の部品加工については、(3)ウ「部品加工，組立て及び仕上げができること」について、さしがねや直角定規を用いて測定したり，他の工具や機器を活用し，できる能力の育成を図る。その中で視覚・聴覚・触覚を取り入れながら，より正確に理解させ作業を進める。

5 単元の目標

- 部品加工に用いる各種機器・工具の特徴を知り，けがきが的確にでき，必要に応じて修正することができる。
- 安全な加工法を知り，各種機器・工具を正しく取り扱うことができる。

6 単元の評価規準

ア. 生活や技術への関心・意欲・態度	イ. 生活を工夫し創造する能力	ウ. 生活の技能	エ. 生活や技術についての知識・理解
①部品加工に積極的に取り組むことができる。	①安全で効率よく部品加工を行うことができる。	①工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	①適切に，工具や機器を取り扱うことができる。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
課題発見・解決力	生活に役立つ作品を選択し，安全に効率良く材料加工と丁寧な仕上げ作業を進め，使用目的や使用条件に即した作品を完成させることができる。	生活に役立つ作品を選択し，材料加工・仕上げ作業を進め，使用目的や使用条件に即した作品を完成させることができる。	生活に役立つ作品を選択し，材料加工・仕上げ作業を進め，作品を完成させることができる。

8 指導と評価の計画

(全13時間)

次	学 習 内 容	評 価					
		意	工	技	知	評 価 規 準	評価方法
1	けがき作業(2) 製作図をもとにけがき作業をする。	○				ア①部品加工に積極的に取り組むことができる。 ウ①工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	行動観察 製作品
2	材料の切断(2) けがき線をもとに各種機器・工具を適切に使用し材料の切断を		○			イ①安全で効率よく部品加工を行うことができる。 ウ①工具や機器の取り扱いを的	行動観察 製作品

	する。				確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	
3	部品加工（２） 切断作業後，各種機器・工具を使用し目的の形に加工する。 （本時 5 / 13）		○	◎	イ①安全で効率よく部品加工を行うことができる。 ウ①工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	行動観察 製作品
4	部品仕上げ（２） 加工した各部品を，やすり等を適切に使用し仕上げる。		◎	○	イ①安全で効率よく部品加工を行うことができる。 ウ①工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	行動観察 製作品
5	組み立て（３） 仕上げを行った各部品を，製作図をもとに工具類を適切に使用し組み立て作業を行う。		○	◎	イ①安全で効率よく部品加工を行うことができる。 ウ①工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	行動観察 製作品
6	製品の仕上げ（１） 組み立てた製品を確認し最終仕上げを行う。		◎	○	イ①安全で効率よく部品加工を行うことができる。 ウ①工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。	行動観察 製作品
7	製作のまとめ（１） 製作における各種機器工具の安全で正しい使用の仕方および製作作業全般についてまとめる。		○	◎	ア①部品加工に積極的に取り組むことができる。 エ①適切に工具や機器を取り扱うことができる。	行動観察 ワークシート

9 本時の学習

(1) 本時の目標

各種機器や工具を安全に，かつ適切に使用し，正確な加工作業を行うことができる。

(2) 観点別評価規準

○各種機器や工具を安全に，かつ適切に使用し，正確な加工作業をしている。 【イ①】

◎工具や機器の取り扱いを的確に行い，安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。 【ウ①】

評価方法：生徒の活動状況の観察，部品加工後の材料

(3) 準備物

教科書，筆記用具，体操服

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導入 5分	各自、前時までの作業内容を確認し、本時の作業工程と使用工具・機器を確認する。 本時の目標を提示する。	◇前時までの作業内容を確認する。 ◇本時の作業の見通しを立てる。	
	各種機器や工具を安全に、かつ適切に使用し、正確な加工作業を行うことができる。		
展開 35分	部品の加工法のいろいろについて学ぶ。 「のこぎりびき」 「かんながけ」 それぞれの方法と注意点 同じ作業を行っている生徒と作業内容・作業方法を確認する。 他者の作業と比較し意見交流する。	◇各加工法についてまとめたものを「プリント類」「板書」「視聴覚機器」「実際の作業の師範」を用いて説明する。 *各自の作業手順を確認させ、作業支援を行う。 ◇同じ作業をしている生徒同士で作業のポイントを確認させる。 *加工作業の注意点を確認させ、作業支援をする。 ◇他者からの意見や作業から作業のポイントに気付く。 ◇作業についてお互いに確認し声を掛け合いながら作業を進めさせる。 *各種機器や工具を安全に、かつ適切に使用し、正確な加工を行っているか。(作業観察)	◎イ①安全で効率よく部品加工を行うことができる。 〔行動観察〕 ◎ウ①工具や機器の取り扱いを的確に行い、安全に配慮して作業し正確に部品加工することができる。 〔行動観察〕
まとめ 10分	片づけ・清掃を行う。 本時のまとめ 次時の作業予定を確認する。		

(5) 板書計画

本時の目標	課題発見・解決力
「各種機器や工具を安全に、かつ適切に使用し、正確な加工作業を行うことができる。」	
<部品加工>	
加工方法	
○のこぎり引き	○かんながけ
使用道具	使用工具
・両刃のこぎり	・かんな
・クランプ	・金工万力
	・端材
注意点	
・姿勢	・姿勢
・持ち方	・持ち方
・切り方	・かんな掛け
切り始め	かんな掛け方向：繊維方向のみ
切断中	⇒縁取りのみ

保健体育科学習指導案

指導者 田中 陽一

単元名 体育理論 球技「サッカー」

単元で育成する資質・能力の重点 思考力・判断力・表現力

1 日時 平成30月11月22日(木) 5校時 場所 1年3組教室

2 学年 第1学年2・3組 (男子32名)

3 単元名 体育理論 球技「サッカー」

4 単元について

(1) 単元観

サッカーは、二つのチームに分かれて、腕以外を用いて1個のボールを奪い合い、相手ゴールにシュートして得点し、勝敗を競うところに楽しさや喜びを味わうことができるスポーツである。サッカーは、「ボールを扱う動作」「運動量の多さ」「俊敏な動き」といった要素を含むので、瞬発力・全身持久力・筋力・アジリティの発達に適したスポーツである。

また、サッカーはチームスポーツであり、協調性や責任感、さらに身体接触が多いため「フェアプレーの精神」を養うことができる。相手ゴールに向かってどう攻め込むのか、相手ボールをどうやって奪うかなど、ひとりひとりが周囲の状況をみて、判断し、プレーしていくことが重要なスポーツである。

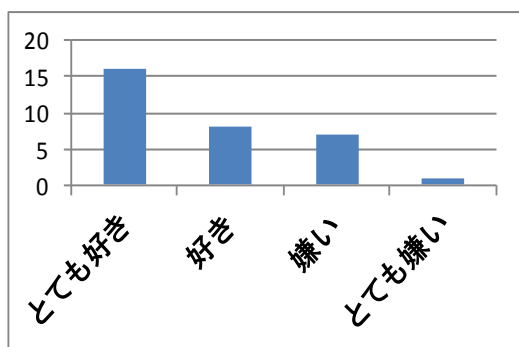
(2) 生徒観

本学級の男子生徒は、運動が好きな生徒が多く、休憩時間は毎日グラウンドでサッカーやバスケットをして体を動かしている。授業においても、どの単元も意欲的に取り組もうとする。特に球技が好きな生徒が多くサッカーは人気が高い。

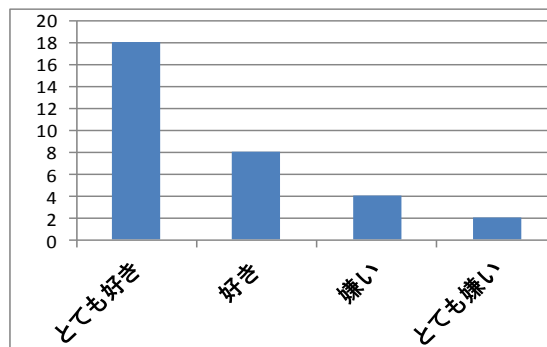
パス、トラッピング、ドリブルなど基本的な技能の習得は中学生になってから本格的に取り組んでいるが、昨今のサッカー人気により小学校でも休憩時間や放課後にサッカーを楽しむ時間もあり、「蹴る」「止める」といった技能もある程度できる生徒が多い。

しかしゲームを構成していく上で必要なサッカーに関する知識やルール、組織的な攻撃や守備の方法といった内容は学習していない。したがって、ゲームを行っても単調な蹴り合いになったり、ドリブルが多用されたりしがちである。以下は球技に関するアンケートである。(対象：1年生2・3組男子32名)

「あなたは球技が好きですか」



「あなたはサッカーが好きですか」



(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、実技面においてはドリブル・パス・ヘディング・シュート・GKのキャッチングなど個人的技能を身につけさせるとともに、理論学習ではサッカーの基本的なルールやコートを広く使って攻撃する方法、またチームやゾーンで行う戦術を考えさせたい。そして実際のゲームではひとりひとりが周囲の状況をみながら、自分で判断し、プレーしていくことを意識させたい。チームとして組織的に攻撃や防御

によるゲームができるようになることを目標とする。

そのために実技練習と理論学習を組み合わせながら効果的に授業を展開する。簡易ゲームなどを通して個人や集団での課題を見つけさせ、修正点を考えたり話し合いながら、それぞれの技能にふさわしい練習の仕方を各グループやチームにおいて工夫し、それぞれのチームの課題を解決できるように、協力して学習に取り組ませる。

5 単元の目標

- サッカーの楽しさや喜びを味わえるよう練習やゲームに積極的に取り組むとともに、勝敗に対し公正な態度がとれるようにする。また、安全に留意しようとする。
- 自分やグループの能力に応じた課題を設定し、その解決をめざし練習やゲームの仕方を工夫できるようにする。
- サッカーの特性に応じた技能を身につけ、ゲームで活かすことができるようにする。
- サッカーの特性や効果的な練習の仕方、ルール、審判法、ゲームの運営の仕方について理解できるようにする。

6 単元の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考力・判断力・表現力	ウ. 運動の技能	エ. 知識・理解
①健康、安全に留意して練習やゲームをしようとする。 ②ルールを守って互いに協力しながら最善を尽くし、勝敗に対して公正な態度でゲームをしようとする。	①自分やグループの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指し練習やゲームの仕方を工夫している。	①サッカーの特性に応じた技能を身につけ、ゲームに活かすことができる。	①サッカーの特性や効果的な練習の仕方、ルール、審判法、ゲーム・運営の仕方について理解している。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
思考力・判断力・表現力	自己の課題やチームの課題を的確におさえ、課題に適した練習の場を選んでいる。	自己の課題を持ち、仲間とともに練習の場を選んで取り組んでいる。	課題設定の仕方や解決のポイント、練習方法についてアドバイスする。
運動の技能	パスやトラッピング、ドリブルといった基本技能が一人または仲間と安定して行うことができる。	パスやトラッピング、ドリブルなどの苦手技能を克服しようと仲間とともに練習することができる。	学習カードや補助を通してパスのポイントを確認したり、練習の仕方をアドバイスしたりする。

8 指導と評価の計画

(全8時間)

次	学 習 内 容	評 価					
		関	考	技	知	評 価 規 準	評価方法
1	オリエンテーション ・安全面の確認 ・ボールに慣れる	○				ア①健康, 安全に留意して練習やゲームをしようとする。 ア②ルールを守って互いに協力しながら最善を尽くし, 勝敗に対して公正な態度でゲームをしようとする。 ◎ エ①サッカーの特性や効果的な練習の仕方, ルール, 審判法, ゲーム運営の仕方について理解している。	観察
2	個人的技能 ・ドリブル パス ・シュート GKの基本 ・簡易ゲーム	○			◎	ア①健康, 安全に留意して練習やゲームをしようとする。 ウ①サッカーの特性に応じた技能を身につけ, ゲームに活かすことができる。 ○ エ①サッカーの特性や効果的な練習の仕方, ルール, 審判法, ゲーム・運営の仕方について理解している。	実技 観察 ワークシート
3	グループの特徴や能力に応じた練習 ・攻撃や守備の方法 ・ルールの理解と戦術 (本時4/8)		◎			イ①自分やグループの能力に応じた課題を設定し, その解決を目指し練習やゲームの仕方を工夫している。 ○ エ①サッカーの特性や効果的な練習の仕方, ルール, 審判法, ゲーム・運営の仕方について理解している。	観察
	ゲーム ・簡易ゲーム ・ポジションや作戦を工夫する	○			◎	ア①健康, 安全に留意して練習やゲームをしようとする。 イ①自分やグループの能力に応じた課題を設定し, その解決を目指し練習やゲームの仕方を工夫している。	実技 観察 ワークシート

4	まとめ ・ まとめのゲーム ・ 技能テスト	◎			ア②ルールを守って互いに協力しながら最善を尽くし、勝敗に対して公正な態度でゲームをしようとする。 ウ①サッカーの特性に応じた技能を身につけ、ゲームに活かすことができる。	実技観察
---	-----------------------------	---	--	--	---	------

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○オフサイドのルールを理解し、攻守の戦術に活かせるようにする。

(2) 観点別評価基準

◎自分やグループの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指し練習やゲームの仕方を理解している。 【イ①】

○サッカーの特性や効果的な練習の仕方、ルール、審判法、ゲーム・運営の仕方について理解している。 【エ①】

(3) 準備物

パソコン、筆記用具、DVDデッキ、ビデオ、TV、モニター、ワークシート

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇) ・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導 入 5 分	本時の説明 ・ 学習の流れを静かに聞く。 サッカーのルール (復習) ・ ハンドリング、プッシング等基本ルールを学習する。	◇静かに説明を聞き、本時の内容を把握させる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> オフサイドのルールを理解し、効果的な戦術を考えよう。 </div>		

展	<p>オフサイドのルールを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットのサッカーに関するサイトを使って、オフサイドのルールを学ぶ。 <p>理解の度合いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの問題を通してオフサイドの判定を各自で行ってみる。 <p>(考えを発表する)</p>	<p>◇動画による解説を利用するが、必要に応じて、黒板に書き込みを行いながら説明していく。</p> <p>◇情報を的確に把握する。</p> <p>◇各自で考え、発表させる。</p> <p>*解説はビデオを利用し、画像によって行う。</p>	<p>◎イ①自分やグループの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指し練習やゲームの仕方を工夫している。</p> <p>[行動観察]</p>
開 35分	<p>グループで戦術を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組になる ・オフサイドのルールを活かしながら、チームとしてどのように攻撃すればよいかを、紙面上でイメージする。 ・2対2, 3対2, 4対3などのケースでどのように動けばよいかを協議してワークシートに記入する。 ・グループで代表を決め、話し合った戦術を発表する。 	<p>◇グループでワークシートにある作戦図を考え記入させる。</p> <p>*戦術方法を例示したり示唆しながら、効果的な方法を考えさせる。</p> <div data-bbox="730 1037 1145 1261" data-label="Diagram"> </div> <p>*プレーの意図を明確にさせ、全体へわかりやすく表現させる。</p>	<p>◎エ①サッカーの特性や効果的な練習の仕方、ルール、審判法、ゲーム・運営の仕方について理解している。</p> <p>[行動観察]</p>
ま と 10分	<p>オフサイドを実際の試合映像で分析し、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J F Aの審判研修ビデオを活用し視聴する。 <p>次回の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフサイドトラップをゲームの中で使ってみる。 	<p>◇実際のプレーを見ながら、オフサイドのルールや戦術について学ばせる。</p>	<p>◎エ①サッカーの特性や効果的な練習の仕方、ルール、審判法、ゲーム・運営の仕方について理解している。</p> <p>[行動観察]</p>

(5) 板書計画

目標 オフサイドのルールを理解し効果的な戦術を考えよう。 思考力・判断力・表現力

○フリーキック

直接フリーキック

- ・ハンドリング
- ・プッシング
- ・キッキング
- ・その他危険行為など

間接フリーキック

- ・オフサイド
- ・キーパーチャージ
- ・オブストラクション

○オフサイドとは

- ・相手コートで相手のディフェンス（キーパーを含む）が1人しかいない時に、待ち伏せをしてパスをもらおうとする行為
- ・ドリブルで突破するのはかまわない。
- ・パスが出た後で走り込むのはオフサイドではない。

○作戦を考えてみよう

保健体育科学習指導案

指導者 柳川 早実

単元名 「器械運動 マット運動」

単元で育成する資質・能力の重点 思考力・判断力・表現力

1 日時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 体育館

2 学年 第1学年2, 3組 (女子30名)

3 単元名 「器械運動 マット運動」

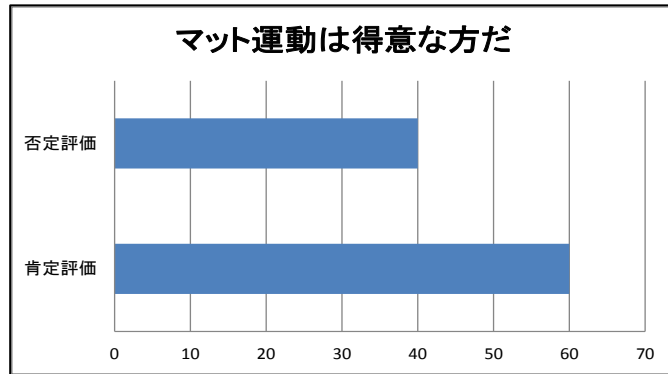
4 単元について

(1) 単元観

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動で構成される。器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、できる楽しさや喜びを味わうことや、できなかったことができるようになるまでの過程に、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、できるようになった技を組み合わせることができることにも面白さがある。器械運動は、個の技能が重要になる種目ではあるが、技を成功させるためにグループやペアで活動し、自分では気づけない問題点や成功のための様々な視点を見つけ、お互いの技能向上に向けて教え合うことができる。そして、できた時の達成感を共有することができるのも器械運動の大きな魅力である。

(2) 生徒観

右の事前アンケートでは、「マット運動は得意な方だ」という質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が60%、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えた生徒が40%であった。この結果を踏まえ、高め合うことのできるグループを検討することが重要になる。



(3) 指導観

保健体育科では、「仲間と協力し、継続して努力することによって得られる達成感を味わえる授業」を作りたいと考えている。そこで、「学習規律の徹底」「頑張れる集団作り」を大切に、年度当初から授業に取り組んでいる。マット運動は、できる、できないがはっきりしている運動である。マット運動を通して、できなかったことができるようになる達成感を感じられる授業を展開したい。主に回転系の技を中心に組み、得意な生徒の活躍の場の設定と、苦手な生徒が達成感を味わえるような活動の設定をしていきたい。初めから教師がポイントを示すのではなく、生徒同士で成功のためのポイントを見つけ出し、工夫して練習に取り組むようにし、不得意な生徒が成功できるような環境を整えたい。そのために、得意不得意に配慮したグループ作り、得意な生徒の示範、視覚教材の使用を取り入れた授業を展開したいと考えている。

5 単元の目標

- 器械運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たし、仲間の学習を援助できる。
- 課題に応じた練習方法を選択し、仲間の良い動きを指摘し合い、構成に適した技の組み合わせを見つけることができる。
- マット運動では、回転系の技を組み合わせるための基本的な技を滑らかに行い、同じグループや異なるグループの基本的な技の中から、いくつかの技を組み合わせることができる。
- 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組みを工夫できる。

6 単元の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 思考力・判断力・表現力	ウ. 技能	エ. 知識・理解
①器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②分担した役割を果たそうとしている。 ③仲間の学習を手助けしようとしている。	①課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ②仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 ③学習した技から「はじめ-なか-おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見つけている。	①マット運動では、回転系や技巧系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技ができる。 ②基本的な技の中からいくつかの技を組み合わせることで行うことができる。	①器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
関心・意欲・態度	自ら積極的に練習に取り組んでいる。	グループで割り当てられた役を責任もって行う。	マット運動への恐怖心を取り除く工夫を行っている。
思考力・判断力・表現力	手本を見て、どこをどのようにすると良いか気づき、実践する。	友達の良い所や直したら良い所を言ったり、受け入れたりできる。	友達の演技を見て、どこが大事なところか気づかせる。
技 能	開脚前転が正しく美しくできる。	開脚前転の、動きができる。	膝が曲がる・起き上がれない生徒は、道具などを使い段階的に行う。

8 指導と評価の計画

(全8時間)

次	学 習 内 容	評 価					
		関	考	技	知	評 価 規 準	評価方法
1	器械運動の特性や、学習の目標やねらい、授業の流れを理解しよう。(1) オリエンテーション 器械運動で習う種目、目標の確認、全体計画の把握 ワークシートの活用方法 ウォーミングアップと準備の方法の確認	○				ア①器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。	ワークシート 行動観察
	ウ①回転系や技巧系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技が						
	前転のポイントを見つけ出そう。			◎			

	グループの力で全員がレベルアップしよう。 《回転系》 ・前転	○	○		できる。 ア②分担した役割を果たそうとしている。 ア③仲間の学習を手助けしようとしている。	
2	開脚後転のポイントを見つけ出そう。(1) グループの力で全員がレベルアップしよう。 《回転系》 ・開脚後転 ・後転倒立 ・後転	○		◎	ウ①マット運動では、回転系や技巧系の技を組み合わせるための、滑らかな基本的な技ができる。 ア③仲間の学習を手助けしようとしている。	行動観察 ワークシート
3	開脚前転のポイントを見つけ出そう。(2) (本時4/8) グループの力で全員がレベルアップしよう。 《回転系》 ・開脚前転		◎	○	イ①課題に応じて、技の習得に適した体の動かし方や練習方法を選んでいる。 イ②仲間と学習する場面で、仲間の動きを指摘している。	
4	側方倒立回転のポイントを見つけ出そう。(2) グループの力で全員がレベルアップしよう。 《回転系》 ・側方倒立回転 ・ロンダード	○	◎	○	イ①課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 イ②仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。 ア③仲間の学習を手助けしようとしている。	
5	練習してきた技を組み合わせ、連続技を発表しよう。(2) ・練習 ・発表会 ・単元の振り返り	○		◎	○ イ③学習した技から、「はじめ—なか—おわり」などの構成に適した技の組み合わせを見つけている。 ウ②基本的な技の中から、いくつかの技を組み合わせる。行っていくことができる。 エ②技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。	実技テスト ワークシート

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○どうすれば開脚前転が美しくなるかグループで互いに見つけ合う活動を通して、技の習得に適したポイントや練習方法を考えながら、互いに指摘し合うことができる。

(2) 観点別評価基準

◎開脚前転を正しい動きで行うには、どのように体を動かすと良いか・どのようなタイミングで体重移動をしたらよいかを感じる。 **【イ①】**

○グループで互いの動きを見て、アドバイスをする。 **【イ②】**

(3) 準備物

マット、ホワイトボードセット、タブレット5台、ワークシート、(ロイター板)、チャコペン

(4) 本時の学習の展開

主な発問と学習活動		教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導 入 10 分	あいさつ 体操・補強	・健康状態を把握する。	
	本時の目標の確認	開脚前転を美しく行おう！！	
展 開 35 分	グループ練習	※グループ内での役割や、見方を提示する。	◎イ①グループで互いに見合う活動を通して、技の習得に適した練習方法を考えることができる。 [行動観察]
	「どうしたら美しく開脚前転ができるのだろうか」	◇全体を見るのではなく、手、足、上半身など細かく分離して考えさせる。	
	①ヒントなしで練習 ・話し合い	・お互いに技を流れるようにするだけのグループが予想される。お互いに見合いながら、全員でポイントを見つけ出せるようにする。	
	②模範演技を見る。	◇美しくできている生徒の模範と、上手くない場合の模範（教師が行う）を見て比較させる。	
	③見つけたポイントの共有	◇初めから終わりまでの一連の動作のポイントをわかるように話させる。 *絵を描いて説明しても良い。	◎イ②ポイントを意識しながら、互いに指摘し合うことができる。 [行動観察]
	④最終練習	*得意な生徒、不得意な生徒それぞれの立場で感想を聞く。	
ま と め	振り返り 成功へのポイントをと グループごとに発表 次回の予告		

5分	今回の練習をもとに 始めから終わりまで 完成させ, 次の種目へ とつなげていく。		
----	---	--	--

(5) 板書計画

本時の目標

思考力・判断力・表現力

開脚前転を美しく行おう

～授業の流れ～

①既習技の確認

②開脚前転グループ練習

③仕上げ(グループ評価)

まとめ

音楽科学習指導案

指導者 佐藤 由季子

単元名 「我が国の伝統的な音楽に親しもう」

単元で育成する資質・能力の重点 思考力・判断力・表現力

1 日時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 第1音楽室

2 学年 第2学年2組 (男子22名 女子13名)

3 単元名 「我が国の伝統的な音楽に親しもう」

4 単元について

(1)単元観

本単元では、雅楽「越天楽」を題材として取り上げる。本楽曲は、雅楽の曲の中でも親しみやすい旋律で有名である。最短16小節で旋律を完結することができるため、楽器や旋律について聴き取ることが容易である。本楽曲は、次の6つの点において、題材としてふさわしいと考える。

①これまで学習してきた西洋音楽の響きの透明感に比べると不調和だが、美しい我が国独特の響きである。

②ひとつひとつ楽器が増えていき、いわゆる対位法のように、様々な展開がなされる。

③拍子感が全くないわけではないが、拍節的ではない。(鈞太鼓と鉦鼓の関係性と役割及び拍の揺らぎ)

④ひとつひとつ楽器が減っていき、最後は静かに終わる。(静⇒動⇒静⇒余韻)

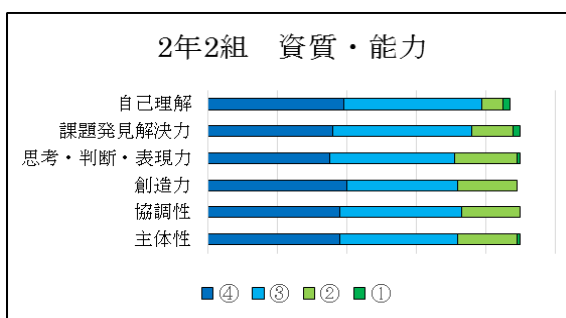
⑤これまで学習してきたオーケストラなどと使われる楽器は違うが、管・弦・打で編成され、オーケストラよりも以前に成立している。

⑥指揮者は存在せず、互いの息遣いや主管等の先導によって全体を統率する工夫がなされている。

(2)生徒観

本学級の生徒に、学習に対する意識調査を行ったところ、以下のような結果となった。

資質・能力	④	③	②	①
主体性	38	34	17	1
協調性	38	35	17	0
創造力	40	32	17	0
思考・判断・表現力	35	36	18	1
課題発見解決力	36	40	12	2
自己理解	39	40	6	2



[④とてもあてはまる ③少しあてはまる ②あまりあてはまらない ①全くあてはまらない]

どの項目においても、7割以上の生徒が肯定的解答を示しており、学習に対して意欲的に取り組んでいることが分かる。しかし、音楽科の鑑賞の授業では、1学期に学習した「交響曲第5番ハ短調」の鑑賞文において、音楽を形づくっている要素に着目して知覚し、音楽が生み出す雰囲気やイメージを自分の言葉で記述できている(「おおむね満足できる」ものを含む)生徒は60.7%に留まっている。想像力を働かせ、自由にイメージすることはできるが、聴き取ったことと関連づけて言葉で表現する力を身につけていくことが重要である。

(3)指導観

本題材は、我が国の伝統音楽という日本人自身が後世に伝えていかなければならない重要な文化の一つである。しかし、生徒たちにとっては「普段あまり触れることのないもの」「特別なもの」という思いがあり、親しみも薄いと考える。

雅楽の管絃は「世界最古のオーケストラ」とも言われ、形態は西洋の管弦楽とよく似ている。そこで、指導においては、これまでの授業を通して聴き馴染んできたオーケストラの演奏と比較聴取することにより、楽器の違いによる音色の特徴、日本の音階による響きの違い、拍感の違い等を聴き取らせたい。また、それにより生み出される雅楽特有の雰囲気やイメージを感じ取り、雅楽の魅力・管絃の美しさを味わわせたい。

5 単元の目標

- ①我が国の音楽における楽器の音色や奏法から音楽の多様性を理解して聴くこと
- ②音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから総合的に理解して聴くこと

6 単元の評価規準

ア. 音楽への関心・意欲・態度	イ. 音楽表現の創意工夫	ウ. 音楽表現の技能	エ. 鑑賞の能力
①雅楽の楽器やその音色に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャや曲想との関わりに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。			①雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や、雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想との関わりを理解している。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
思考力・判断力・表現力	知覚した情報と感受した内容を適切に分類したり相互に結び付けたりしてそれらをもとに自分なりの言葉で多様な言語表現ができる。	知覚した情報と感受した内容を適切に分類したり相互に結び付けたりしてそれらをもとに言語表現ができる。	知覚した情報と感受した内容をもとに、言語表現ができる。

8 指導と評価の計画

(全2時間)

次	学 習 内 容	評 価					
		関	創	技	鑑	評 価 規 準	評価方法
1	管弦楽の楽器と雅楽の楽器の違いや、雅楽が成立した時代背景を知ること、その独特の音色を味わって鑑賞する。	◎				ア①雅楽の楽器や、その音色に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	行動観察

2	雅楽『越天楽』を聴いてイメージをもつ。	○			ア②雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャや曲想との関わりに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。	行動観察・ワークシート
	音色、旋律、拍、テクスチャに着目して、知覚・感受する。 (本時2/2)			◎	エ①雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、それらの要素や構造と曲想との関わりを理解している。	ワークシート

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○オーケストラと比較鑑賞して雅楽の特徴を感じ取る。

(2) 観点別評価基準

◎雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、それらの要素や構造と曲想との関わりを理解している。 【エ①】

○雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャや曲想との関わりに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 【ア②】

(3) 準備物

語句カード、写真、CD、DVD、ワークシート

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導入 5分	○前時の復習として「雅楽の楽器」を確認する。	◇使われている楽器等を写真で示し、思い出させる。	
	○本時のねらいを確認する。		
	<p>本時のねらい</p> <p>オーケストラと比較鑑賞して、雅楽の特徴を感じ取ろう。</p>		
展開 35分	<p>○比較鑑賞する。</p> <p>A：オーケストラの楽器編成図とB：雅楽の楽器編成図を参考に比較鑑賞し、相違点を発表する。</p> <p>個人思考→ペア交流</p> <p>○鑑賞の視点をもとにさらに比較鑑賞を深め、相違点をワークシートに記入する。</p>	<p>◇視点を与えず、視覚・聴覚それぞれからの情報を自由に発表させる。</p> <p>◇鑑賞の視点を設ける。</p> <p>鑑賞の視点</p> <p>①響き②拍(速度)③音の重なり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の方が鋭い響き。 ・雅楽の方がまっすぐな音。 ・雅楽はゆっくり聴こえる。 ・拍が一定でない。 ・だんだんと演奏する楽器が増えていく。 	<p>◎ア②雅楽『越天楽』を形づくっている音色や旋律、拍、テクスチャや曲想との関わりに関心をもち、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>[行動観察]</p>

	○聴き取った音色や拍等や編成図の情報から、雅楽の特徴をまとめる。	*編成図から楽器等に注目させる。 ◇生徒の気づきを中心に、雅楽の特徴をまとめる。	
まとめ 10分	○雅楽の特徴をふまえて、鑑賞文を書く。 ○鑑賞文を交流する。	◇オーケストラとの、比較聴取を活かした鑑賞文となるように促す。 *雅楽の特徴のまとめを、参考にさせる。	◎エ①雅楽『越天楽』を形づくっている音色、旋律、拍、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、それらの要素や構造と曲想との関わりを理解している。 〔ワークシート〕

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%; margin: auto;"> <p><オーケストラ編成図></p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 90%; margin: auto;"> <p><雅楽編成図></p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>目標</p> </div>	<p>オーケストラと比較鑑賞して、雅楽の特徴を感じ取ろう。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: auto;"> <p>思考力・判断力・表現力</p> </div>			
	響き	拍（速度）	音の重なり方
雅楽			
オーケストラ			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 80%; margin: auto;"> <p><雅楽の特徴まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ </div>			

生活単元科学習指導案

指導者 森山 洋子

単元名 「困ったときどうする？」

単元で育成する資質・能力の重点 自己理解

1 日時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 特支1組教室

2 学年 特別支援学級1組 (第1学年2人)

3 単元名 「困ったときどうする？パート2」

4 単元について

(1)単元観

生活単元学習とは、「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際・総合的に学習するもの」である。自立した生活を送るために最も大切なことは、人権を守ることだと考える。学校生活で起こったトラブルをもとに、どうしたら解決できるかをロールプレイで学習したり、社会科で日本国憲法の第13条の「基本的人権」や国連の障害者権利条約について、自分たちの生活に照らし合わせて学習をしたりする予定だ。また、卒業後、高等部、社会人となって自立した生活が送れるよう、合理的配慮を示した「障害者差別解消法」について知ることは重要である。本単元で、実際に困ったことや、今後予想されることを共に考えることを通して、自立した生活を送る力をつけさせたい。

(2)生徒観

本学級は、知的障害を伴う自閉症や広汎性発達障害のある生徒4人で構成されており、音楽、保健体育、総合的な学習、給食を交流学級で行っている。今回の授業は2年生2人が交流学級の授業を受けるため1年2人のものになる。2年生は本時の学習を昨年度の3学期に行っている。

1学期は学級内で1年生が2年生の人権を軽んじるトラブルが続き、そのたびに学級会で話し合いをしてきた。今回は1年生だけなので、加害者にさせないための授業ができる。困ったことが起こっても一人で我慢したり、ごまかしたりする面もある。上のグラフは、年度当初の資質・能力の分析である。合わせて今後の伸長を図っていく。

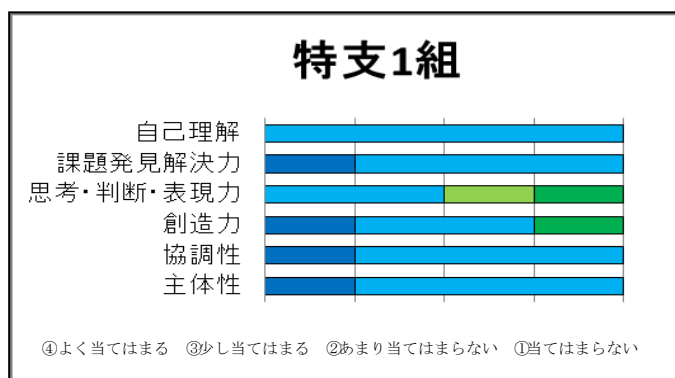
(3)指導観

指導にあたっては、実際に起こったことや、これから起こるであろうことを想定して、困ったときはどうしたらよいかを考えさせたい。ロールプレイを取り入れ、考えたことを生徒たちに実際に演技させることで、解決方法を具体的に体験させたい。生徒の活動の良かったところをほめ、肯定的評価をしていく。さらに、日常生活で活かされたときは最大限の評価をする。

5 単元の目標

○困ったことが起きたとき、解決する方法を学ぶ。

○自分を大切にすることが、まわりを大切にすることにつながることを知る。



6 単元の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 技能	ウ. 知識・理解	エ. コミュニケーション
活動に積極的に参加しようとしている。	説明を聞き、ルールを守って行動することができる。	活動のポイントを理解することができる。	グループで協力して学習を行う。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
自己理解	困ったときに解決できる言動がとれる。	困ったときに解決する方法を知る。	授業に参加して、考える。

8 指導と評価の計画

時	学習内容	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力の 評価 (評価方法)
		関	技	知	コ		
1	学級目標の提示 「自分を大切にする」	◎		○		ア学級目標が理解できたか。 ウ活動のポイントを理解することができたか。	行動観察
2	じょうずな聞き方 すごろくトーク			◎		ウじょうずな聞き方のポイント3つが理解できたか。	行動観察 発表 ワークシート
3	じょうずな話し方 さいころトーク		◎			イじょうずな話し方のポイント4つが理解できたか。	行動観察 発表 ワークシート
4	困ったときどうする？ パート1			○	◎	ウ活動のポイントを理解できたか。 エいやがらせをされたとき、どうすればよいか、理解できたか。	観察法 発表
5	困ったときどうする？ パート2 (本時5/6)		◎	○		イ困った場面で、どうすればよいか、理解できたか。 ウ活動のポイントを理解できたか。	観察法 発表
6	読み聞かせ	◎				ア絵本の読み聞かせを通して、学んだことを深められたか。	観察法

9 本時の学習

(1) 本時の目標

- 困ったことが起きたときの解決方法を知ることができる。

(2) 観点別評価規準〈生徒の実態と目標〉

ア. 関心・意欲・態度	イ. 技能	ウ. 知識・理解	エ. コミュニケーション
活動に積極的に参加しようとしている。	ロールプレイに参加する。	権利, 困ったときはNO!GO! TEL!の言動をとればよいことを知る	前回の授業を生かして, 人の話を聞いて自分の意見を言うことができる。

生徒	生徒の実態	目 標
A	・言動が軽率である。 ・ていねいに話をしたら素直に対応できる。	・自分の言動を振り返る。
B	・人なつっこい ・言い訳や自慢が多い。	・困ったとき, どうすればよいか理解する。

(4) 準備物

キャプション, ワークシート, 広報みはら 12月号「みんなが住みやすい町へ～知っていますか障害者差別解消法～」

(5) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導入	困ったときどうする? パート2		
	学級目標を思い出す。 10分 前回 (上手な話し方) 前々回 (上手な聞き方) の授業を思い出す。		◎ア上手な聞き方, 話し方のポイントを言える。 [行動観察]
展開	「生きていくために絶対に必要なものは何でしょう?」 →権利 (安心・自信・自由)	《予想される答》 食べもの 水 家 服	
	ロールプレイ (安心が取られた内容) それをどう変えたらよいか考えてロールプレイに参加する 35分	◇内容が理解しやすいよう, 介助の先生とロールプレイを行う。 《予想される答》 先生に言う 隠す	◎ウ活動のポイントを理解できたか。 [行動観察]
分	ロールプレイ改訂版 (安心が守られた内容) 困ったときは NO! GO! TELL!	*ロールプレイの改訂版を演じさせる。 ◇GO!は逃げるだが, 恥ずかしいことではない自分を守る行動だと説明する。	◎エいやがらせをされたとき, どうすればよいか, 理解できたか。 [ワークシート]

まとめ 5分	障害者権利条約や障害者差別 解消法に触れる ワークシートでふりかえる	◇三原市の広報を見せて三原市も 取り組んでいることを示す。	
-----------	--	----------------------------------	--

(5) 板書計画

自己理解	困ったときどうする？パート2	学級目標 自分を大切にする
権利…生きていくのに絶対に必要なもの	しょうがいしゃけんりじょうやく 障害者権利条約	
安心 自信 自由	しょうがいしゃさべつかいしょうほう 障害者差別解消法	
困ったときは NO! GO! TELL! いやだ！ 逃げる 大人に言う その場をはなれる		

自立活動学習指導案

指導者 山田 浩美

単元名 「喫茶『とくとく』を開店しよう ～さつまいもを使ったお菓子の調理～」

単元で育成する資質・能力の重点 協調性

- 1 日時 平成30年11月22日(木) 5校時 場所 調理室
- 2 学年 特別支援学級2組(自閉症・情緒障害学級) (第1学年男子6名)
- 3 単元名 「健康に関すること」
- 4 単元について

(1) 単元観

自立活動学習においては、自己選択や自己決定・実行する経験と達成感を感じることが出来る活動内容を取り入れ、「できた」「わかった」「人の役に立った」などを実感できるような学習活動を行うことで、自己肯定感を高め、個々の主体性を養い、意欲的に取り組めるような学習にしていきたい。社会の中で、コミュニケーションをとりながら生きていくことになる生徒の社会生活や将来の就労等を考え、本単元を設定した。

本単元は、さつまいもをどのように調理すればよいか考え、材料を使ってお菓子作りをし、身近な先生方を招待して交流会を行う。身近な人を招待することにより、自分から積極的にお客さんに対応する、相手の要求を正しく把握し、相手に応じたサービスを行うなどの学習をさせることができる。自分たちの手作りお菓子を「おいしい」と認めてもらうことで自己肯定感を高め、お客様への対応を通してコミュニケーション能力を高めたい。その学習を通して、6人の生徒の個々の自立に向けた学習を深めたい。

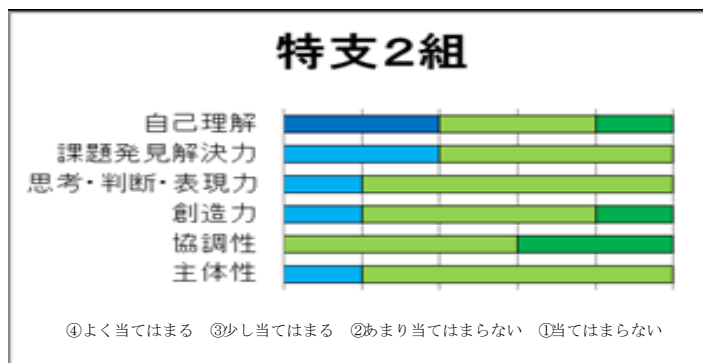
(2) 生徒観

本学級は、1学年男子6名の生徒が在籍している。広汎性発達障害や自閉症スペクトラムなどの診断を受け一人ひとりの実態はさまざまである。アンケートの結果を見ると、どの生徒も協調性が低いことがわかる。自閉症スペクトラムの診断を受け、学校の授業に適応しにくい生徒は、不登校傾向にある。また、広汎性発達障害の生徒は、相手を言葉で攻撃したり、感情の起伏が激しい。どの生徒もこだわりが強く、他者とのコミュニケーションが苦手である。

1学期の自立活動の学習では、運動を通して、コミュニケーション能力を高めることを目標に取り組んできた。2学期は、喫茶「とくとく」に目標を定め、授業を進めていきたい。

(3) 指導観

メニューやレシピを話し合わせ、意欲付けをして、自然な流れで接客の学習まで取り組ませたい。コミュニケーション能力に課題があることを受けて、本単元では、「お客様においしいとほめてもらえるお菓子作り」を目標に設定し、それを達成するために、個々の生徒の実態に合った適切な支援を行う。達成感や意欲を高め、次の活動へつなげていきたい。指導にあたっては、次の工夫を行う。



- 授業内容の理解を促すために、掲示物、具体物等を用意して視覚的な支援を行う。
- 生徒の学び合いの場として、出来上がったお菓子を参観者にふるまう。

- スケジュール表を提示し，見通しがもてるようにする。
- 達成感がもてるような肯定的評価をしていく。
- 特に相手を意識した言動や，よく協力できている点に対して積極的に評価する。
- 周囲と積極的にコミュニケーションを図ることで，たくさんの人からの評価を身近に感じさせる。

【個の支援】

- 生徒A 行動に自信がもてるよう，できたことについて具体的に肯定的な声かけをしていく。
- 生徒B 登校を促し，役割を持たせる。
- 生徒C 自分の役割がわかりやすくなるよう視覚支援していく。
- 生徒D 見通しを持たせ，自分の役割を把握させる。
- 生徒E こだわりがあるので，自分のしたいことを選択させ，できたことについて肯定的な声かけをする。
- 生徒F 友人とともに協力し完成させ，達成感を得させる。

5 単元の目標

- 自分の役割を果たし，自分が役立ったことへの達成感や仲間と共に活動する喜びを味わう。
- 協力して活動し，自分の役割を果たすことができる。
- 良いコミュニケーションの方法を理解することができる。

6 単元の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 技能	ウ. 知識・理解	エ. コミュニケーション
①大きな声で発声練習をすることができる。 ②振り返りの話し合いに，積極的に参加している。	①材料の分量を確認して，買い物に行くことができる。	①仕事をする上で必要事項を理解している。	①協力して作業をすることができる。 ②安全に気を付けて，協力して実習ができる。 ③接客マナーに気を付けて，お客様への対応ができる。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
協調性	友人の意見を聞きながら相手の気持ちを考えて行動できる。	相手の気持ちを気にして行動できる。	自分のことしか考えられない生徒には，周りの人の気持ちを代弁して伝える。

8 指導と評価の計画

(全10時間)

次	学 習 内 容	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	技	知	コ		
1	喫茶店の仕事を知る。(1)	○				ア①大きな声で発声練習をすることができる。	行動観察 発表

	身だしなみ・衛生管理について学ぶ。(1) 注文票を作る。 用語発声練習をする。(1) ふれあい喫茶の看板を書く。用語発声練習をする。(2) 食券・メニューを作る。 用語発声練習をする。(1)		○ ◎	ウ①仕事をする上での必要事項を理解している。 エ①協力して作業をすることができる。	
2	買い物に行く。(1) お菓子作りをする。(1) (本時8/10) 喫茶「とくとく」(1)		○ ○ ◎	イ①材料の分量を確認して、買い物に行くことができる。 エ②安全に気を付けて、協力して実習ができる。 エ③接客マナーに気を付けて、お客様への対応ができる。	行動観察
3	反省・感想を文や絵で表現する。(1)	◎		ア②振り返りの話し合いに、積極的に参加している。	行動観察 発表

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○喫茶店の活動に興味を持ち、意欲的に調理実習をすることができる。

(2) 観点別評価規準〈生徒の実態と目標(個人の目標)〉

生徒	生徒の実態	目標
A	○広汎性発達障害・多動症候群 ○大変真面目で、クラスではリーダーとしてどの授業にも積極的に取り組むことができる。どの授業も、意欲的に粘り強く取り組む。 ○できないことが重なったり、自分の感情を伝えられない時は、カッとしたり物や人に当たることがある。感情のコントロールがつかなくなる前の早めの対応が肝心である。	○自分の役割を決め、活動できる。 ○自分の分担の片づけまで協力してやり切る。
B	○広汎性発達障害・注意欠陥多動性障害 ○不登校傾向ではあるが、登校すれば、授業真剣に取り組む。会話のキャッチボールが得意で、ずっとしゃべり続ける。 ○粘り強く問題に取り組む真面目さがあるが、ていねいなため、処理速度が遅い。口頭の指示だけでは、聞き逃してしまうときがあるので、具体的な指示や視覚支援が必要である。	○自分の役割を最後までやり切る。 ○家庭での経験を活かして、調理をする。
C	○自閉症スペクトラム ○アトピーがひどく、イライラしたり汗をかくと体中かく。イライラがひどい時は、別室でのクールダウンが必要である。 ○知的に少し遅れも見られ、一斉授業では理解が難しいこともある。話すこと・書くことは苦手であるが、何事にもまじめに取り組む。	○計量を正確に行い、丁寧に作業する。 ○言葉で対応することができる。
D	○自閉症スペクトラム ○不登校傾向であるが、徐々に自分のペースで登校し、友人とかわわりを持つことができるようになってきている。活動内容がわ	○自分の役割を決め、活動できる。 ○自分の分担の仕事

	かり，見通しがもてると，自分で選択して活動する。理解度は非常に高い。	を片づけまで協力してやり切る。
E	○広汎性発達障害 ○こだわりが強く，文字を書くことを特に嫌がり，興味のわかないことはしない。 ○語彙が豊富で，会話やゲームになると参加する。 ○感情の起伏が激しく，気持ちの切り替えに時間がかかり，周り合わせて活動できないことが多い。登校しても，多くの時間を，別室で過ごす。	○自分の役割をやり切る。 ○自分の分担の仕事を片づけまで協力してやり切る。
F	○自閉症スペクトラム ○勉強への意欲はあるが，書くことは苦手である。語彙が豊富で，論理を語るのが好きで，会話やゲームになると意欲的に学習する。 ○感情の起伏が激しく，口論となったり物を投げたりして相手を攻撃することがある。気持ちの切り替えに時間がかかり，いつまでもこだわりを持つ。	○自分の役割を決め，活動できる。

(3) 準備物

エプロン，筆記用具，材料（さつまいも・バター・砂糖・卵），振り返りカード

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ			評価(◎) 〔方法〕
		指導上の留意点(◇)・支援(*)			
		生徒A・B・F	生徒C	生徒D・E	
導 入 10 分	1. 作業の準備をする。 2. 本時の目標と授業の流れを確認する。	◇手洗いをし，エプロンを着用する。 ◇さつまいもを美味しく食べるにはどうか考え，発表させる。 ◇今日の材料を使って30分で何ができるか考える。	◇手洗いをし，エプロンを着用する。 ◇さつまいも料理の写真を見て献立名を答えさせる。 *さつまいも料理の写真的提示。 ◇調理方法を提案する。	◇手洗いをし，エプロンを着用する。 ◇参加するよう促す。無理な場合は，見学でもよい。 *さつまいも料理の写真的提示。 ◇自分の意見を人前で話すことができる。	◎ウ①仕事をすすめる上での必要事項を理解している。 〔行動観察〕
() を作ろう。～さつまいもを利用したお菓子～					
		◇目標を理解する。 ◇どんな道具が必要か考える。	◇目標を理解する。 ◇道具の名称が言える。	◇目標を理解する。 ◇アイデアを出す。	
	3. 材料・調理器具・食器をそろえる。	◇協力して道具を出させる。	◇必要なものを積極的に集めさせる。	◇必要なものを集めさせる。	

展 開 30 分	4. さつまいもを洗い、輪切りにして加熱する。	◇さつまいもを洗い輪切りにする。 *やる気を持続させるよう声をかける。 *やけどしないように支援する。	◇電子レンジに入れて柔らかくなるまで加熱する。 ◇さつまいもが煮えたかどうか竹串を刺してみる。	◇さつまいもを洗い輪切りにする。	◎エ②安全に気を付けて、協力して実習ができる。 〔行動観察〕
	5. 他の材料を正確に計量する。	◇材料を量る。	◇材料を量る。 *基本的な作業を見せる。	◇材料を量る。 *材料を入れる順を間違えないように、支援をする。	
	6. さつまいもをつぶし、形を整える。	◇どんな形が良いか考えさせる。	*やって見せながら、こぼさず丁寧に作業するよう声をかける。	◇形成したさつまいもに刷毛で卵黄を塗る。	
	7. オープンに入れる。	◇時間を正確にセットし、できていないときは、調整をする。	*やけどしないように、出し入れは支援する。	◇きれいに並べる。	
	8. 盛り付ける。	◇やって見せながら、やけどしないように、安全にできるよう声をかける。	*やって見せながら、安全にできるよう支援する。	*やって見せながら、安全にできるよう支援する。	
まとめ 10 分	9. 試食する。 ・参加者の方にも食べてもらう。 ・感想を書く。 10. 片づけをする。	◇がんばったこと、よくできたことを、しっかりと褒める。 *ワークシートへの記入は支援する。 ◇喜んでもらえたかどうかをいっしょに確かめる。 *最後までがんばれるよう声をかける。	◎エ③接客マナーに気を付けてお客様への対応ができる。 〔行動観察〕		

(5) 板書計画

本時の目標	協調性
() を作ろう	作り方
材料 さつまいも 砂糖 バター 卵 牛乳	
道具 ボール まな板・包丁 ゴムべら・すりこぎ アルミカップ・スプーン	
	授業の流れ 準備 ↓ 実習 ↓ 片づけ ↓ 試食 ↓ 反省・評価

自立活動学習指導案

指導者 久保高 由美

単元名 「健康に関すること」

単元で育成する資質・能力の重点 課題発見・解決力

1 日時 平成30年11月22日(木)5校時 場所 特別支援学級3組教室

2 学年 特別支援学級3組(自閉症・情緒障害学級)
(第2学年男子2名・第3学年男子1名 計3名)

3 単元名 「健康に関すること」

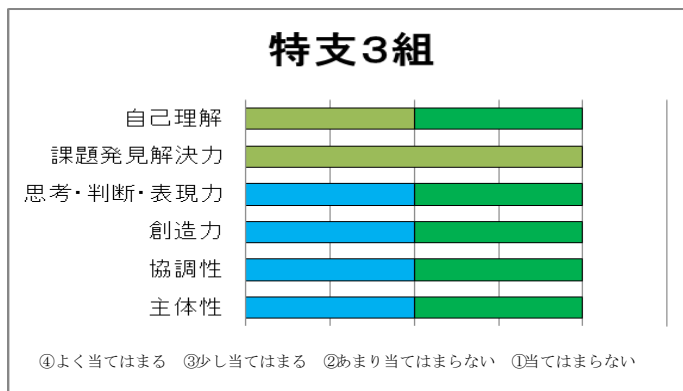
4 単元について

(1)単元観

自立活動学習においては、自己選択や自己決定・実行する経験と達成感を感じることが出来る活動内容を取り入れている。また生涯にわたって健康な身体で生活を営むために、健康に関する内容について理解することが大切である。自己の健康管理を意識し、自分の体を守るために、基本的な生活習慣や衣・食・住について考える必要がある。そこで食事・運動・休養の三原則について、「わかった」「できた」などを実感できるような学習活動を行い、自己肯定感や、個々の主体性を養い、意欲的に取り組めるような学習にしていきたい。今回は発酵について学習するが、自己の生活の中で、身体にどのように影響をしているか、自分の身体との関わりを考えるために本単元を設定した。

(2)生徒観

本学級は、自閉症・情緒障害の学級で、広汎性発達障害や注意欠陥多動性障害及びLD(学習障害)のある2学年男子2名と注意欠陥多動性障害の3学年男子1名の生徒が在籍している。一人ひとりの実態はさまざまである。4月実施の右のグラフでは、どの生徒も自己肯定感が低く、協調性を持つとしない特徴がある。集団の交わりを避け、学校の授業に適応しにくい生徒は、不登校傾向また閉じこもりの傾向にある。こだわりが強く、他者とのコミュニケーションも苦手である。



1学期の自立活動は、お弁当の日の調理実習、梅もぎ体験とシロップづくり、体幹強化のためのストレッチボードづくりなどを、各教科と関連付けて実施した。生徒と会話の中で食事のとり方や、規則正しい食生活ができていない実態があり、腸が規則正しく活動していないことがわかった。

(3)指導観

生徒の実態から、健康に生活するために、本単元で発酵食品について考え、特に子供たちが摂取しやすいヨーグルトの製作を行うこととした。食品が持つ性質や特徴を理解させると共に、自己の体の器官や組織、免疫力について保健の授業と関連づけて学習させたい。

日本人の主食である米の玄米と、植物性タンパク質の大豆からできる豆乳を活用し、玄米豆乳ヨーグルトを作成する。本単元は、健康に関することの「自分の身体と食品について考えよう」を目標に設定し、それを達成するために、個々の生徒の実態に合った適切な支援を行う。自己の身体に興味を持ち、次の活動へつなげていきたい。指導にあたっては、自分の身体の変化に気づき、自らが体験し思考したことが、今後、食品への興味や関心となり、自分で選択して食事の工夫をおこない、将来自立できるようにさせたい。

個別の支援は次のとおりである。

- 授業内容の理解を促すために、掲示物、具体物等を用意して視覚的な支援を行う。
- 生徒の学び合いの場として、作品を試食し、他の製品と比較する。
- 達成感がもてるような肯定的評価をする。
- 特に言動や、よく協力できている点に対して積極的に評価する。
 〈視覚化〉キーワードや写真を用いて示す。学習の流れを掲示する。
 〈パターン化〉作業は反復練習する。手順の確認をさせる。
 〈作業化〉衛生的に行うために、素早く活動することを考えさせる。

【個の支援】

- 生徒A 登校を促す。
- 生徒B 行動に自信がもてるよう、具体的に肯定的な声かけをしていく。
- 生徒C 自分の役割が、わかりやすくなるよう視覚支援していく。
 作業に見通しを持たせ、自分の役割を把握させる。

5 単元の目標

- 自ら積極的に参加し実習している。
- 自己の健康に興味を持つことができる。

6 単元の評価規準

ア. 関心・意欲・態度	イ. 技能	ウ. 知識・理解	エ. コミュニケーション
①自ら積極的に参加し実習している。 ②体の変化に気づくことができる。	①資料を基に活動することができる。 ②安全に気を付けて、実習ができる。 ③後片付けが最後までできる。	①資料を読んで自分の考えを伝えることができる。 ②自己の健康に興味を持つことができる。	①協力して実習をすることができる ②振り返りの話し合いに、積極的に参加している。

7 本単元で育成したい資質・能力の評価基準

観 点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
課題発見・解決力	自ら課題を持ち積極的に参加し実習している。	自ら参加して実習している。	課題を発見できるよう作業の見通しを持たせる。

8 指導と評価の計画

(全6時間)

次	学 習 内 容	評 価				評 価 規 準	評価方法
		関	技	知	コ		
1	自分の生活実態について考える。(1) 自己の身体について考える。 発酵について学習をする(1) 発酵食品の種類を確認する。	○			◎	ア①資料を読んで自分の考えを伝えることができる。 エ①協力して作業をすることができる。	記録 行動観察 発表

2	万能酵母液（玄米乳酸菌）作成(実習)（1）	○	◎		ア①自ら積極的に参加し実習している。 イ①資料を基に活動することができる。	行動観察 記録
3	植物性ヨーグルトの作成（実習） （玄米+豆乳）A・B・C・D（1） （本時 4／6）		◎	○	イ②安全に気を付けて実習ができる。 イ③後片付けが、最後までできる。	
4	わかったこと、今後自分が生活の中で取り入れたいことなどを考える。 応用編 ヨーグルトを考える（1） 植物性と動物性の比較（実習）（1）	○		◎	○エ②振り返りの話し合いに、積極的に参加している。 ウ②実習後自己の健康に興味をもつことができている。 ア②体の変化に気づくことができる。	行動観察 発表 記録

9 本時の学習

(1) 本時の目標

○色々なヨーグルトの作り方をすることができる。

(2) 観点別評価規準〈生徒の実態と目標（個人の目標）〉

生徒	生徒の実態	目標
A 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・広汎性発達障害 ・登校していない。11月からデイケア施設へ月に10日程度出席。運動をするために通っている。 ・学習する事について、ストレスを感じるが多いため、学校の門がくぐれない。 ・自分で自己決定することができる。運動の時には参加することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に参加し見学ができる。
B 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・注意欠陥多動性障害・LD（学習障害） ・登校は毎日しており、授業は真剣に取り組む。ワーキングが弱く、時間がかかる。会話がよくでき自分のことがよく話せる。（自己肯定感が低く、否定的な面が多い） ・粘り強く問題に取り組む、真面目さがある。丁寧なため、処理速度が遅い。口頭の指示では、聞き逃してしまうときがある。そのためメモをするが、メモしたことを忘れることが多い。具体的な指示や具体的な視覚支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら積極的に参加し実習している。 ・安全に気を付けて、協力して実習ができる。 ・わかったことをまとめて、自分の身体に気づき生活に活かすことができる。
C 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・注意欠陥多動性障害 ・遅刻せず登校をするが、授業中寝ていることが多く、授業中の学習が成立しないことがある。 ・1対1の支援がなければ不安を感じるが多いため、作業を止めたり、眠ってしまうこともある。取りかかるまでに時間がかかる。 ・自分の思いを表現し書くことは難しいが、思いを聞きだし、書き方を学習することができた。 ・睡眠によっては朝食や給食（昼食）を抜くことも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら参加して実習しようとしている。 ・説明を聞き、ルールを守って活動することができる。 ・計量を正確に行い、丁寧に作業することができる。 ・自分の思いをまとめて伝えることができる。

(3) 準備物

エプロン, 三角巾, マスク, 筆記用具, 振り返りカード, ワークシート, 消毒液
 材料 酵母乳酸菌, 玄米, 豆乳 (無調整有機丸大豆), 市販ヨーグルト

(4) 本時の学習の展開

	主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
		指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
導入 10分	作業の準備をする。 前時の復習と本時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いをし, エプロンを着用する。 ・発酵について前時で分かったことを発表する。 ・玄米と大豆の写真を見せて何ができるか考える。 	
	<p>色々なヨーグルトの作り方を知る事ができる</p>		
展開 30分	材料・調理器具・食器をそろえる。 A～Dのカードの手順に従って順に製作する。 ①必要な材料を正確に計量する。 ②協力して実習する。 A・玄米乳酸菌 50ml 無調整豆乳 450ml B・無調整豆乳 900ml 市販ヨーグルト 山盛り大さじ3 C・無農薬玄米 小さじ1 無調整豆乳 300ml D・無調整豆乳 200cc 発芽玄米の研ぎ汁 50cc ③一ずつ確認しながら実施していく。	◇前時のことを考えて実習の手順を発表させる。 *学習の流れを提示する。 ・どんな道具が必要か考え, 準備をする。 ・容器に材料を入れて作成していく。 ・資料を読み取ることができる。 (レシピの確認をさせる) ◇わからないことは自分から質問をして教え合う。	◎イ①資料を基に活動することができる。 [行動観察] ◎ア①自ら積極的に参加し実習している [行動観察] ◎イ②安全に気を付けて, 実習ができる。 [行動観察]
	まとめ 片付け	作品の完成を確認し, A～Dのタグをつける。 片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・ビンや容器を確認して間違えないようにタグをつける。 ・まだ発行が足りなくて今後観察がある物には, 時間や日にちを記入する。 ・最後まできれいに片づける。 ・用具の使い方や協力体制について

10分	<p>本時の振り返りを書く。</p> <p>次時の連絡</p>	<p>お互いに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時が自主的に積極的に参加実習できたか考えさせる。 ・気が付いたことや不思議に思ったことを考えさせる。 (体との関係について考えてみる。) <p>◇生活習慣や家庭生活に活かす。</p>	
-----	---------------------------------	---	--

(5) 板書計画

目標 色々なヨーグルトの作り方を知ろう。 課題発見・解決力				
授業の流れ 準備 ↓ 実習 ↓ 片付け ↓ 振り返り	A 材料	B 材料	C 材料	D 材料
	玄米乳酸菌 無調整豆乳	無調整豆乳 市販ヨーグルト	無調整玄米 無調整豆乳	無調整玄米発芽玄米の とぎ汁

視覚支援の手立ての具体（手順カード）

A・カード

①豆乳と玄米乳酸菌を容器に入れて混ぜる。常温で 5～10 時間寝かせる。埃除けに軽く蓋を被せておく。固まってきたらこまめに見る。

冷蔵庫に入れて保存する。

B・カード

①豆乳パックの口を前回に広げて明ける。
②器に市販ヨーグルト大さじ 3 と豆乳を同量混ぜる。混ぜたらもう少し豆乳を足して緩めにして、豆乳と混ぜやすい濃度にする。
③広げたパックの口から混ぜたヨーグルトを戻し入れ長ささじで全体を混ぜ、ヨーグルトメーカーで 6～7 時間。
～1 日。温度によって固まる。

C・カード

①清潔な瓶に軽く水で洗った無農薬玄米を入れる。

②玄米が全部隠れるくらい（60ml）くらいの無調整豆乳を瓶に注ぎ、蓋をして常温で半日から 1 日おく。夏場は頻繁にみる。

③固まったらさらに 60ml 注ぎ半日おく。

④固まったら種菌の出来上がり、2 L の無調整豆乳から 100 cc 除いてから種菌大さじ 1～2 を入れ、常温で半日から 1 日おく。

D・カード

①清潔な容器に豆乳ととぎ汁を入れて常温で放置。蓋は少し空気が入るようにピッタリ閉めない。